



地震災害

まず、身の安全を確保しましょう。大きな地震では、家具の転倒や建物の倒壊のおそれがあります。

地震の起こる仕組み

活断層地震 地下にある岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで内部にゆがみのエネルギーがたまり、これが限界に達したときに、ある面(断層面)を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。

海溝型地震 海側のプレートが陸側のプレートを引きずり込むことで境界にゆがみのエネルギーがたまり、これが限界に達したときに、陸側のプレートが元に戻ろうとして跳ね上がり、地震が起こります。

地震の揺れと想定される被害

震度5弱	<ul style="list-style-type: none"> 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 棚にある食器類や本などが落ちることがある。 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
震度5強	<ul style="list-style-type: none"> 物につかまらなると歩くことが難しい。 棚にある食器類や本などが落ちるものが増える。 補強されていないブロック塀が倒れることがある。
震度6弱	<ul style="list-style-type: none"> 立っていることが困難になる。 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
震度6強	<ul style="list-style-type: none"> はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 耐震性の低い木造建物は、傾くものがある。倒れるものが増える。 大きな地割れが生じたり、大規模な地滑りや山全体の崩壊が発生することがある。
震度7	<ul style="list-style-type: none"> 耐震性の低い木造建物は、傾くものがある。倒れるものがさらに多くなる。 耐震性の高い木造建物でも、まともに傾くことがある。 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

※出典：気象庁「気象庁震害経験の解説」

緊急地震速報が出されたら

周囲の状況に応じて、あわてずまず身の安全を確保しましょう。

緊急地震速報(平成19年10月1日一般向け運用開始)は、地震の発生直後に、震源近くで地震波をキャッチし、強い揺れが始まる直前にすばやくお知らせする情報です。最大震度5弱以上が推定される場合に、テレビやラジオ、メールを通じて、もうじき揺れることをお知らせします。

緊急地震速報を発信してから強い揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒しかありません。その短い間に、自分の身を守ることを最優先に行動しましょう。

緊急地震速報のしくみ

震源近くで地震(P波)を検知すると、直ちに緊急地震速報を発信するための地震観測を開始し、地震波との競争です。

震源から観測されるまでの時間差が長くなります。

震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります。

住宅の耐震診断について

耐震診断アドバイザー制度 (原則昭和56年以前に建築された木造戸建住宅を対象です。)

建物について、築年数や地盤の情報、壁の位置や屋根の仕様などを調査するアドバイザーを現場へ派遣し、地震に対する強さを総合的に検討してもらえます。

(財)福岡県建築住宅センター 耐震改修相談窓口で相談を受け付けています。詳しくは、ホームページなどからお問い合わせください。

(財)福岡県建築住宅センター <http://www.fkjc.or.jp/>

(財)日本建築防災協会 <http://www.kenchiku-bousai.or.jp>

住宅の耐震補強について

耐震診断の結果、耐震性に問題があった場合は補強工事が必要となります。耐震補強を行った建物にかかる固定資産税が減免されることがあります。詳しくは市役所におたずねください。下記に耐震補強工事の主な方法を示していますので、わが家に最も適した工事方法を選び、耐震補強を行きましょう。

屋根の軽量化	建物の基礎を補強	廊下部分を補強
軽量化については、耐久型などの上部構造部材の補強が効果的です。	基礎コンクリートは耐久型に交換し、基礎を補強します。	廊下部分は新しいものと交換しましょう。

地震が発生したら

地震の規模によって順番が異なることもあります。代表的な行動パターンを示します。

地震発生

グラツときたら...

- あわてて外に飛び出さない。
- 机の下などへ潜る。倒れてくる家具や落下物に注意しよう。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保しよう。

発生から0~2分

揺れがおさまったら...

- 火元を確認し、出火があれば、落ち着いて初期消火しよう。
- 家族が倒れた家具などの下敷きになっていないか安全を確認しよう。
- ガラスの破片が散乱している場合もあるので、靴を履いて逃げる準備をします。靴がなければ厚手のスリッパで代用しよう。

発生から2~5分

デマに惑わされないように...

- ラジオなどで正しい情報を集めよう。
- 電話は控えよう。
- 避難する場合は、車は使わないようにしよう。

発生から5~10分

余震に注意しながら...

- 周辺所に声を掛け、高齢者や障がい者など支援が必要な人(災害時要援護者)の安全確保をしよう。
- 漏電やガス漏れなどに注意し、出火防止に近所でも協力しよう。

発生から10分~半日

地域の皆さんで協力しながら...

- 地震発生後の数日間は、水道、ガス、電気、電話などのライフラインをはじめ、食料の供給が止まる可能性があります。

こんなときは...

路上にいた!

窓ガラスや瓦などの落下物からカバンなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難しよう。

①ブロック塀、自動販売機に近づかない。倒れそうな電柱、倒れ下がった電線に注意しよう。

車を運転していた!

徐々にスピードを落とし、左側に止め、エンジンを切る。揺れがおさまるまで冷静に、カーラジオで情報収集をしよう。

①避難する時はキーは付けたまま、ドアロックもしない。貴重品を持ち出し、徒歩で避難しよう。

電車、バスなどの車内にいた!

つり革や手すりにつかりつかまらなると、乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとろう。

①途中で止まっても、非常口を開けて車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。

エレベーターの中にいた!

すべての階のボタンを押して、停止した階で降りよう。

①押し込まれても無理に脱出しようとせず、非常ボタンで外部と連絡をとり救出を待ちよう。

大型店舗の中にいた!

手荷物やかごなどで頭を保護し、陳列棚の転倒や商品の落下、ガラスの破片に注意しよう。

①出口に殺到するとパニックになり危険です。店員の指示に従いよう。

古賀市で想定される地震について

古賀市周辺に存在する主要な活断層として、「西山断層」、「宇美断層」、「警固断層」などが確認されています(平成24年3月 福岡県地震に関する防災アセスメント調査 報告書より)。

今回のハザードマップでは、県の資料をもとに、古賀市にもっとも影響があるとされる「西山断層」を震源とする地震についてシミュレーションした結果を示しています。

※古賀市周辺の活断層位置図

家の中の地震対策について

地震発生時に家具の転倒などによってケガをしたり逃げ道をふさがれないよう、地震対策を行きましょう。

- タンス、食器棚や本棚は、L字型金具やつっぱり棒で固定しよう。
- テレビはできるだけ低い位置に置き、すべり止めや転落防止バンドで固定しよう。
- 部屋の入り口付近には物を置かないようにしましょう。
- 窓ガラスや棚のガラスには飛散防止フィルムを貼ろう。

